



## 町長就任のあいさつ

立科町長 米村匠人

暑気にわかに加わり、衣替えの季節となりました。皆様方におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、町民の皆様の負託を受け、立科町長に就任いたしました。

多くの町民皆様よりお寄せいただきました声を町政に反映させるべく、職員と一致団結し皆様の期待と信頼に応え、町民の「思い」と「想い」を大切にすることに寄り添う優しい町づくりを全力で取り組む所存でございます。

この町にも少子高齢化の波が押し寄せ地域経済も厳しい現状にあり、若者の求人も少なく団塊の世代も一斉に就労現場より退かれ就労人口の激減が浮き彫りになっていきます。

当町の行財政運営も大変厳しく予断を許さない状況にあります。行政だからできる事、行政だから行わねばならない事をしっかりと認識し、メリハリのある行財政運営を行っていかねばなりません。

少子高齢化社会に対応出来る福祉・子育てや教育支援について町民の声を聞き、行政と共に支え合う仕組みを作らねばならないと考えております。

「元気なお年寄りの方々には巧みの技と知恵袋を活かせる事が出来るように」「障がいを抱える子供達や

家族のために、心にハードルの無い社会作りを」「子供達の未来に夢と希望が持てる町づくり」など、環境も整えなければならないと考えております。

立科町は本年度より、第5次振興計画（立科しあわせプラン）が始動しました。

第3次・第4次の基本理念「人と自然が輝く町」を継承し、10年後に目指す将来像を「澄んだ空！清んだ水！住みよき町に笑顔が弾む！人と自然が輝く町」として掲げ、「健やかに、いつまでも地域で暮らせるまちづくり」「郷土を愛し、心豊かな人を育むまちづくり」「活気ある経済を創造するまちづくり」「豊かな自然とともに暮らす安全・安心なまちづくり」「地域の力で活力あふれるまちづくり」をこれから目指す将来像実現のための基本となる目標として決めました。

町民皆様の思いとアイデア・工夫を反映し、町民主役の町を共に考え、共に築き、約束を実現するため全力で汗をかき働こうと考えております。

合併60周年の節目を迎える立科町で皆様と共に新しい風を吹かせ、誰もが笑顔で「住んで良かった」「訪れて良かった」と思える町に、また「将来に希望を持てる立科町」の実現に向け、誠心誠意努力してまいりますので、町民の皆様方におかれましては、格段のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。就任のご挨拶といたします。



## 副町長就任のあいさつ

立科町副町長 山浦智城

野山の緑の鮮やかさが目にまぶしい季節を迎えました。このたび私こと、5月13日の臨時議会におきましてご同意を賜り、5月16日付で立科町副町長に就任いたしました。副町長という職責の重さに改めて身の引き締まる思いでございます。立科町の振興発展のため、もとより微力ではありますが、誠心誠意努力してまいります所存であります。何卒よろしくお願いいたします。

さて、我が国が直面している人口減少は今後さらに進むことが予測され、このことは経済をはじめ、様々な面に影響を与えることと考えられます。立科町も例外ではなく、町の人口は、平成22年実施の国勢調査では8,000人を割り込み、依然減少に歯止めのかからない状況であります。こうしたなか、町では、昨年、政府が策定した総合戦略に基づき、独自の地方版の総合戦略を本年度中に策定し、地域の実情にあった具体的な施策を考え、地域振興につなげていきたいと考えています。そのためには、地域の皆さんの声を活かしながら、立科町らしさや地域資源を活かしていくことが大切な要素となります。また、本年度は、立科しあわせプラン「第5次立科町振興計画」前期基本計画の初年度として、「澄んだ空！清んだ水！住みよき町に笑顔が弾む！人と自然が輝く町」を目指すべき将来像に町づくりの第一歩を踏み出すときでもあります。

合併60周年の節目の年に、米村町長の住民の「思い」「想い」を大切に心に寄り添う優しい町政を未来につなげていくためにも、町長を補佐しながら、職員と力をあわせて施策の実現のため、一歩一歩前に進んでいきたいと思っております。

まだまだ若輩者ではありますが、町民の皆さま方のご理解とご支援のほどをお願い申し上げます。就任のごあいさつとさせていただきます。